

## 校長ニューズレター(第2号・5月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



### 第1回講師招聘研修会で学んだこと

長田小学校の子ども達の学力形成が目的で、第1回講師招聘研修会を開催しました。講師は今年度から設けることになった共同研究者(川嶋環先生・西江重勝先生)のお二人です。

研修は、大まかに言って3つのジャンルで行った。ここでは紙面の都合から、つぎの①と②について紹介しよう。なお3つ目の「表現活動」については、日を改めて報告したい。

#### 基礎・基本にかかわるもの

川嶋先生が5年3組の子ども達に授業をしてくれました。前半は、「漢字の取得」です。まずひらがなばかりの文章を書き出し、子ども達に読ませました。読みにくい文章でした。どうすれば読みやすくなるかの発問。子どもからすぐに、「漢字に直す」とでる。漢字に直せるものは直すと読みやすくなり、しかも文章の意味もわかるようになった。漢字の必要性を学ばせたわけだ。つぎに、新出漢字を辞書で引かせる。読み方と筆順と意味を理解させる。その漢字を漢字帳に2回書かせる。あと数回を家庭で書いてきてもらう。毎日3字の漢字をこのようにして覚える。習得したかどうかのミニテスト(3つの漢字)をおこなう。1週間に2回、10問テストをおこなう。これを1年間続ける。

さて、全国学力テストは2年間続けて振るわず。漢字の読み書きも全国に比べて苦手な部分だった。本校では上述のように漢字帳の活用で克服していくことにしている。

後半は、算数の文章問題の解き方。文章問題も本校の課題となっている。川嶋先生は、あるプリントを子ども達にわたした。そこには、1. 図 2. 式 3. ひっ算 4. 答え と書かれてある。問題を1問だし、上記の1から4まで書かせた。それでわかったことは、式は難なく書き出すのであるが、図を書くことができ

る子が少ないこと。絵ではなく半具象の図を書くことが苦手なのだ。図を描けてこそ、具体的にその文章問題を捉えたことになるのではないか?そのような意図でこのプリントは作られていると思う。この点について、川嶋先生に確認したところ、回答は次の通りであった。

「算数の文章問題は、具体物(文章に書かれている)から半具体(図を描く)を経て抽象(数式)を導き出すようにして解いていく。その道筋を子ども達にわからせること」。川嶋先生は、週に2回(計2問)、このプリントを使って算数の文章問題に取り組んでいくことを提案された。

#### 基礎・基本とその活用にかかわるもの

4年1組で新垣先生が研究授業を行った。教科は国語で、教材は詩「春の歌(草野心平)」。この授業のポイントは、「わからない言葉」と「わからない事」を仕分けして授業を進めること。わからない言葉は、辞書を引く、知っている人に聞く、先生が教えるなどして早急に解決する。わからない事は、追求して解明していく。この詩の場合、「おおきなくも」のくもは、「雲」か「蜘蛛」か?子どもたちの中でも、意見は分かれた。双方、詩に沿って論拠をあげて説明することを促す。そのようにして、この詩を深く味合わせていった。この過程で、“学級の力”が育っていく。こども間、こどもと教師の間で対話が行われ、“伝え合う力”が育っていくのだ。個人ではできない学び合いである。

最後に、詩の朗読。特に「くも」をどのように解釈するかで、朗読はまるで違ってくる。授業のはじめに平板に読まれていた詩が、最後にはイメージをたっぷり含んだ朗読になっていた。詩を学級での対話のなかから読み取っていく。そのことが感性を磨き、確かな学力を形成していくのだと思う。(長田小校長)